

大使挨拶



ハノイ在住の日本人、同胞の皆さん、お元気ですか？今年も又、暑い季節になりましたね。一旦はおさまったかに見えた鳥インフルエンザは、又ぞろハノイ周辺で感染者を出し、私も、一度鳥肉を解禁したのですが、又すぐ鳥肉禁止令を自らに課しております。皆さんも気をつけて下さいね。

さて、今回は、我々のようなベトナムと深い関わりをもっている日本人でも意外と知らない、いい話、心暖まる話を、皆さんに御紹介させて下さい。日本人の素晴らしさ、そして日本人であることの誇りと喜びを、我々、特に海外に住む日本人として常に感じていたいと思いますが、まさにこのような感覚こそが、我々の行動を律するのだと思うのです。良からぬ行動、振る舞いを慎むのみならず、積極的に良いこと、他人の為になる事をする、勿論、このようにある為には、単に日本人としての民族の誇りだけではなく、人間愛が必要なのでしょう。

杉良太郎氏のこれまでの約20年間のベトナムとの関わりを通して見えてくる、彼の姿は、まさに人間愛に尽きると思えてくるのです。そうです、今回は杉良太郎氏の話の皆さんにさせて下さい。

杉さんは若い頃から、社会の底辺であえぐ人々に目を注ぎ、例えば日本国内の刑務所や少年院などを訪れ、矯正の活動に熱心に携わっており、法務省名誉矯正監でもあります。アジア各地での日本人墓地の整備、残留孤児でお世話になった中国への恩返し、ブラジルへ移民をして苦勞をされた移住者の慰問(これらの活動は、いずれも、日本人としての責任、同胞意識に基づくのでしょうか)、そして神戸の大震災の際は、大量の炊き出しをする等々、誰に頼まれた訳ではないのに、私財を投げうって、困っている人、

恵まれない人たちのかたわらに駆けつけて、自分に出来る活動をしています。

ベトナムとの関わりは1988年にまで遡ります。ベトナム戦争で疲弊した国、ベトナムを放っておけなかったのでしょうか。ハノイの孤児院(バックラー)や、盲目の子供達の学ぶ小学校(グエン・ディン・チエウ)に対する援助(毎回訪問時に現金を提供するのに加え、自活できるようにと、にわとりや豚を買ってあげる等)を1988年以来、実に20年間、休まずに続けています。孤児院には現在、杉さんの里子が26人います。里親として、里子の学費、病気になった際の治療費等面倒を見ており、最初の頃の里子の中には、結婚して子供(杉さんにとっては里孫)が出来た子供もいます。

又、杉さんは日本とベトナムの相互理解の為に、文化・スポーツを重視し、1992年には、(財)日本・ベトナム文化交流協会を設立し、日本語の普及をはじめ、多くの文化交流活動を、これも私財を投げうって実施しています。そのハイライトは、1998年に日越外交関係樹立25周年行事として実施した「ホアビン祭り」であり、記憶されている方々もおられるでしょう。杉さんの偉いところは、このような自らの活動を誰に宣伝するでもなく、陰徳型の活動としてやっている点、そして、一時の思いつきではなく、息のながい地道な活動として続けている点でしょう。

これらの活動を通して見えてくるのは、彼の人間愛ではないかと思えます。人間、就中、弱い人、恵まれない人に対する深い愛情なくして、彼の福祉・慈善活動はありえません。

杉さんは、日本の町村外務大臣(当時)から日越友好親善大使を委嘱されていますが、本年5月には、ファム・ザー・キエム副首相兼外務大臣が訪日した際、ベトナム政府からも「特別友好大使」を委嘱されました。ベトナムが外国人にこのような称号をおくるのは、前例がありません。これまでの杉さんの活動への御礼と、今後さらに日越友好の為に汗を流して下さいということでしょう。

来年は日越外交関係樹立35周年です。大使館は日本商工会と御相談をして、多くのすばらしい交流行事を実施したいと思えますが、杉さんも夫人の五代夏子さんと御一緒に、日越友好の音楽祭をハノイで開催したいと張り切っています。今から楽しみです。

それでは、同胞の皆さん、健康と交通事故には十分御注意下さい。

(在ベトナム日本国特命全権大使 服部 則夫)

会長挨拶



皆様、この場をお借りしご挨拶申し上げます。

4月にベトナム日本商工会の会長を拝命し4ヶ月余が経ちましたが、会員企業で日夜ご尽力されている方々の様子を拝見させていただく機会も多く、ベトナム経済の発展に積極的に関わっている日本の姿について認識を日々新たに致す今日この頃です。

また、服部大使閣下をはじめとする日本国大使館関係者並びに JETRO, JICA, JBIC 等の政府関係機関、日本人学校の皆様にも商工会活動に対する絶大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

今年の商工会活動の目標ですが、会長就任時に以下3点を活動の重要項目として掲げさせて頂きましたが、何れも日本国大使館との緊密な連携が必要と認識致しております。

- 1) 日越共同イニシアティブ Phase-2 の成功に向けた商工会の積極的な取組み
- 2) 日本人学校の一層の整備
- 3) 日越国交35周年を2008年に迎えるに当たりの記念行事への積極的な取組み

日越共同イニシアティブにつきましては46項目の協議項目を掲げ、事業投資環境の整備促進を図るべく、事業環境委員会を設置し日越共同イニシアティブを取り纏めるべく特別委員会をおきました。

日本人学校につきましては、生徒数の増加に伴う教室の増築、円滑な学校運営の為の事務局の整備が急務と認識しており学校委員会を中心に取組んで参ります。

日越国交35周年記念事業につきましては商工会部会毎に取組みを取り纏め、大使館関係者とも事業内容を固めて参りたく思います。

今年は、例年どおり商工会まつりも10月に予定しておりますが、日本とベトナムの友好をテーマに成功させたいと願っております。また、サッカーアジアカップの応援なども通じて会員企業の若い方々が商工会行事を通じて親睦を深められる事も目指して行きたいと考えております。

会員企業が260社を超え、あらゆる業種の方々がベトナムで仕事をされております。是非、商工会が会員企業にとり、心の拠り所となるよう務めて参りたく思いますので、商工会活動へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが私自身はハノイにゆかりのある龍年生まれで、ナイジェリア、タイに次ぐ3番目の駐在地ですが、ベトナムが大変好きな人間です。ベトナムについて教えて頂ける方が居られましたらお気軽にお声を掛けてください。

(ベトナム日本商工会 会長 矢代 博昭
伊藤忠商事)

2007年度定期総会議事録

日 時: 2007年4月23日(月)

17:00~18:30

場 所: ホテル日航ハノイ

1. 景山会長より会員数244社のうち出席157社(内84社は委任状)にて、本総会は成立する旨、宣言あり。(会則第13条、第3項)

2. 服部則夫大使閣下(名誉顧問)ご講話

JBAV名誉顧問の服部大使よりご挨拶あり。日越共同イニシアチヴ、首相3大案件への日本政府としての協力姿勢などにつきご説明有り。

3. 2006年度決算報告

矢代事務局長より、下記内容にて、2006年度理事会の承認を受けたので、総会に諮りたい旨説明があった。

(収入)

期中に47社の入会があり、予算比4,991米ドルの収入増であった。

結果、利子等(3,924米ドル)と合わせ、収入総額実績は113,916米ドルとなり、2006年度予算に対して、8,916米ドルの収入増となった。

(支出)

支出に関し、事務局予算は66,100米ドルに対し、ハノイ日本祭り費用が予算を2,091米ドル上回ったため事務局予備費を充てたが、結果、62,719米ドルの実績となった。

商工部会予算は、7,092米ドルの予算に対し、5,726米ドルの実績で、1,366米ドルの未消化。

実行委員会予算は、32,300米ドルの予算に対し、24,750米ドルの実績で、7,550米ドルの未消化。

全体予備費は、事務局員野崎氏退職賞与として支出。5,000米ドルの予算に対し、4,278米ドルの実績で、722米ドルの未消化。

結果、本年度収入実績計113,916米ドルに対し、97,474米ドルの支出実績であり、16,442米ドルの予算未消化決算となった。

(繰越金)

前年度(2005年度)繰越金154,764米ドルに、本年度(2006年度)の未消化決算分(=繰越金)16,442米ドルを加え、次年度(2007年度)への繰越金は171,206米ドルとなった。監事より精査の結果、決算に問題は無い旨の報告を受け、決算につき総会に諮った結果、全会一致で承

認された。(会則第22条)

4. 2007年度会長選出

景山会長より、2007年度第1回臨時理事会(3月6日開催)において矢代博昭氏が会長候補に選出された旨報告があり、総会に諮られた結果、満場一致で矢代会長候補の会長就任が承認された。(会則第11条、第1項)

5. 新旧会長挨拶

景山会長より、退任に伴う挨拶あり。一年間、貴重な経験をさせて頂いた。この間、APECや御手洗経団連ミッションの受入れなど、数多くのビッグイベントがあったが、会員各位の協力によって乗り切る事ができた。全ての会員各位に感謝したい旨発言。

矢代会長より、就任に伴う挨拶あり。2007年度の活動の重点目標として「日越共同イニシアチヴへの大使館と協力しての取組み」「日本人学校運営体制の確立」「日越国交樹立35周年に向けた記念行事への取組み」を掲げ商工会の目標である会員相互間の懇親、情報共有を図りたい旨発言。

6. 2007年度役員紹介

矢代会長より、前年度に引き続き、服部大使にはJBAV名誉顧問、松永公使にはJBAV名誉理事に就任頂いた旨紹介された。

矢代会長より平田事務局長、笠島副事務局長、浜田副事務局長、各商工部会長・副部会長、各実行委員長、会計、監事の紹介があった。

7. 2007年度予算案説明

平田事務局長より、2007年度第1回理事会にて、総会決議とする旨、承認を受け、本総会に諮りたい旨説明あり。

(繰越金)

2006年度からの繰越金は171,206米ドル。

(収入)

収入予算は、JBAV会員からの会費を昨年同様500米ドルとし、現在会員数は246社だが、期中入会も踏まえ、260社として、収入合計130,000米ドルの予算計上。

(支出)

支出予算総額は、143,906米ドルを予算とした。事務局予算は、家賃上げによる事務局家賃、事務局員増員予定による事務局運営費、会員数増加による総会・新年会費がそれぞれ増額となり、加

えて昨年度まつり費用が赤字となったことから予備費も増額し、昨年度予算に比べて24,400米ドル増の90,500米ドルの予算とした。

商工部会費に関し、昨年度同様、各部会に対する交付金は昨年同様の会員会社1社当たり1ヶ月3米ドルとした。会員数が約50社増えたことにより1,764米ドル交付金の増となる。

実行委員会予算は、昨年予算比2,250米ドル増の34,550米ドルとした。主な内訳は、スポーツ文化委員会で日本人学校児童・生徒増員による運動会費用増額、7月開催サッカーアジアカップ予選で来越する日本代表の支援予備費用を計上。広報委員会予算はパンフレット印刷数増加の為、9,100米ドルを計上。BF委員会予算は、VBF、VCCIとの交流費用の減額が予想されるため、昨年比600米ドル減の1,500米ドルとする。日越経済会議委員会でフエ・ダナン大学学生へ奨学金を、経団連と折半負担となる4,800米ドルを計上。

全体予備費に関し、来年迎える日越国交樹立35周年記念行事準備費用の計上が予想されるため、前年度倍増の10,000米ドルを計上。

本年度は、昨年度実績比較で支出予算を46,432米ドル増と計上した為、前期繰越金を約13,906米ドル取り崩すことになるが、依然、繰越金残高は支出予算総額並びに会費収入総額を上回っており、収支バランスに支障が出る可能性はないと思われる。

2007年度予算案は満場一致で承認された。(会則第23条)

8. 2007度会費及び納入時期

平田事務局長より、会費は1社USD500、VND換算レートは1US\$=VND16,000とし、振込手数料を各社負担の上、1年分をまとめて5月31日までに納入頂きたい旨説明があり、承認された。(会則第21条、第1項)

その他意見、質問無く、閉会となった。



事務局長挨拶



この度、事務局長を拝命しました日産テクノベトナムの平田です。昨年度の工業部会長に引き続き JBAV の役員を務めさせて頂く事に対し、身の引き締まる思いですが精一杯頑張つて行きたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

今年は、昨年のような APEC や経団連の来越など一大イベントは予定されておりませんが、一方で2008年の日越国交 35 周年記念の準備年に当たること、日越共同イニシアティブ phase II のまとめ、首相3案件に対する民間からのアプローチ、合わせて規模拡大を続ける日本人学校の中期的な位置付けをスタディーしていく事などが、商工会としての主要な課題と考えております。

これら課題のほか日常的には、会員数が増加の一途を辿る中で、ややもすると会員相互の連携が希薄になることも懸念されるかと思えます。端的に言えば、会員の約半数を占める工業部会においては、相互の企業がどのような業種なのか、何を造っているのかなどの情報すら共有できない状況になってきています。商工会の本来の目的でもある会員相互の理解、連携、親睦を維持・向上することに関して、今一度振り返って対応するべき時期かとも考えております。

事務局としては、会員企業の増加にも拘らず、局員含めた4名体制で運営しております。上記に掲げた課題を克服して行くためには、力不足の面も多々あるかと思えますが、会員企業の皆様のご協力を得ながら一年間を務めて行きたいと思っておりますので、よろしくご支援をお願い致します。

(ベトナム日本商工会
事務局長 平田 敬
日産テクノベトナム)

副事務局長挨拶



この度2007年度 JBAV 副事務局長を仰せつかりましたロジテムベトナム No.1 浜田でございます。微力ではございますが、矢代 JBAV 会長並びに平田事務局長のサポート役及び各理事並びに会員の皆様とともに JBAV の活動に積極的に取り組んで行きたいと考えております。

まず事務局として私の役割は2008年に予定しております日越外交関係樹立35周年記念行事の準備委員としてその責務に従事致します。会員の方々には、記念行事についてご意見、イベントの提案など頂戴し、また実行委員会のメンバーとしてご参加頂き、4J(大使館 JICA, JETRO, JBIC)とともに日越両国の更なる発展のため成功させたく思っています。

10月には毎年盛大に開催しております JBAV 主催の「まつり」の実行委員長として、このイベントが無事に成功するようまつり委員とともに工夫を凝らし尽力を尽くす所存です。

他、本年も日本からのベトナム投資に活気付くよう、JBAV としてサポートし、ますます JBAV が発展するよう努力したいと思っております。

最後に、何分この大役に不慣れな点もあり会員の皆様にはご迷惑をお掛けすると思っておりますが、この1年、ご協力ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

(ベトナム日本商工会
副事務局長 浜田貴一
ロジテムベトナム No.1)

□役員人事 (8月1日より)
副事務局長:
笠島氏(三菱東京UFJ銀行)より
後任の山下氏へ



2007年度のベトナム日本商工会の副事務局長を務めます三菱東京 UFJ 銀行の山下です。これから1年間よろしくお願いたします。この7月にハノイに着任したばかりで、このような大役を私が引き受けてよいものかと迷いもありましたが、少しでもお役に立つことがあればという思いでお引き受けし、皆様のご指導を承りながら、一生懸命取り組んでまいりたいと考えております。何卒ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

私の今回のベトナム勤務は、3回目の海外赴任となります。ここ一ヶ月、お取引先にご挨拶にお伺いしておりましたが、そのなかで、痛切に感じたことが一つありました。アジアという一つの地域でも、国によって、それぞれ異なる価値観や習慣をもちあわせており、その対応に、皆様が小さなことも含めて大変な努力を重ねておられることです。

ベトナムは、有能な人材が確保でき、かつ比較的安価な労働コストを人気の一因として、日系企業の進出が増えてきました。また、証券市場拡大により同分野等でのスタッフへの需要が急増し、有能なスタッフは企業間で取り合いになるなど人材の流動化が進み、一部人材の給与は急激に上昇している感があります。このように、ベトナムのなかの価値観や習慣も徐々に変わりつつあるようです。

今後、会員各社との交流を通じまして、ベトナムが抱える課題の解決に向けまして、微力ながらお役に立てればと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(ベトナム日本商工会
副事務局長 山下弘人
三菱東京 UFJ 銀行)

☆☆貿易部会長☆☆



砥上 剛(丸紅)

2007年度の貿易部会長を務めます、丸紅の砥上 剛です。よろしくお願いいたしません。

ベトナムの市場経済化は着実に進展し、アジアでは中国に次ぐ高い経済成長率を持続させています。今年初め、ベトナムはWTOへの正式加盟も果たし、更なる市場開放と外国直接投資の拡大、民間セクターの活性化などによる高度成長が期待されます。貿易部会会員各社に直接関係のある流通・商業活動分野も徐々に外資企業への開放が進められております。

ブームは更に加速しており、貿易部会としては、市場開放プログラムに沿ってベトナム政府が策定する関連政策、法令、規定などに関する共同研究、意見交換などを通じ、会員各社のお役に立ちたいと考えております。また会員各社のスムーズなビジネス活動のため、事業環境についての情報交換や、必要に応じてベトナム政府に対する提言、陳情を行い、ベトナムと日本企業の取引拡大に少しでも貢献したいと考えております。ご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。

☆☆建設部会長☆☆



奥村知央(大林組)

2007年度建設部会長を仰せつかりました大林組の奥村です。

ここ数年、私どもの業界も忙しさを増しております。建設部会の会員数も昨年度から4社増え、30社でのスタートとなりました。

今年度の活動内容といたしましては、昨年同様、日本人学校建設管理等に関する協力、会員企業のビジネス環境の改善、現場見学会の実施などを行い、会員企業の利益になるような活動を積極的に行っていきたいと考えています。

昨年、ベトナムの首相が日本を訪問された時には大型プロジェクトへの支援要請があったと新聞で報じられていました。また、ハノイ市内では古い建物の建て替え、新しい道路や橋の建設が活発に行われています。今後、数年間は建設ブームが続くと期待されます。しかし、われわれ日系建設会社がベトナムで企業活動するには他の業種と異なりいろんな問題が存在します。皆様のご協力を得ながら、この問題に取り組んでいきたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

☆☆工業部会長☆☆



村上晃彦(トヨタベトナム)

本年度の工業部会会長を務めさせていただくトヨタベトナムの村上です。ベトナム経験・人生経験の何れをとりましても遥かに豊富なものをお持ちの諸先輩方がいらっしゃる中で、とても適任とは言い難いと自己評価しておりますが、精一杯努めさせていただきますので宜しくお願いいたします。

本年度の工業部会の目玉として「特別テーマワーキングによる活動」を企画しております。賃金・福利厚生、労務・採用問題、事業

環境といったテーマを取り上げ、工業部会員の視点から課題の整理や情報の共有化をしていこうというものです。

また、工場見学などの相互交流、ゴルフなどの懇親の機会も設定し、少しでも「商工会に入って良かった」と感じていただけるよう努力して参りたいと思っております。

各会員の皆様におかれましては、各種活動に積極的にご参加いただけるよう、この場を借りて改めてお願い申し上げます。

☆☆金融保険部会長☆☆



齋藤 順(三井住友銀行)

2007年度の金融保険部会長を仰せつかりました三井住友銀行の齋藤です。ベトナムには12年前に約1年間の語学研修でホーチミンに、2年半前から今回の赴任でハノイに参りました。12年前と比較すると、ベトナムの生活及び投資環境は大きく改善したことを実感しております。殊にここ2年は中国リスク回避と相まって本邦企業のベトナム進出は一気に加速しています。

金融分野では、ベトナム株式市場の盛況、外資100%出資の銀行設立等の市場開放

により、今年は更なる成長が期待できると考えております。一方で手形・小切手等の決済が普及していない等、改善すべき点多々あります。

金融保険部会は銀行、保険、証券、会計事務所及びファイナンス会社の14社で構成されております。部会活動を通じて、商工会会員企業の皆様に有益な情報を提供し、皆様の当地での事業運営に貢献して参りたいと思っておりますので、ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

★★サービス等部会長★★



安原 誠 (ホテル日航ハノイ)

サービス等部会長の安原 誠と申します。サービス等部会にはサービス関連企業の方ばかりではなくITなどの多くの異業種の方々が会員となっております。そのため当部会では異業種間の情報交換、相互理解、懇親を第一と考え活動しております。

さらにIT分野についてはJBAV会員の皆様にも情報発信しております。

また、商工会の行事、委員会の活動等に部会全体で積極的に参加しJBAVの活性化に協力しておりますので、よろしく願いいたします。

★★運輸部会長★★



中野 聡 (日本通運)

2007年度運輸部会長を務めさせていただきます、ベトナム日本通運の中野でございます。

運輸部会が独立して私で4代目となります。この間に会員数も着実に増加し、特に本年よりその勢いが増して参りました。

ベトナムのWTO加盟が認められ、通関、物流を取り巻く環境に変化が生じてきております。

運輸部会に所属する運輸企業には、通関等税関に関わる事項、港湾、空港ターミナル

等交通省に関わる事項あり、その動向には皆様から大きな関心を寄せられております。日越共同イニシアティブにおいても、そのテーブルに上がっている案件が多々あります。

本年度はこのような物流を取り巻く環境について会員相互の情報交換を積極的に図ってゆきたいと思っております。又、昨年、工業部会と物流について交流を図る機会がございましたが、本年度も他の部会との交流も引き続き図って行きたいと思っております。

この一年どうぞ宜しくお願いいたします。

★★学校委員長★★



後藤 帥夫
(ITソリューションズ)

この度、2007年度の学校委員会委員長の大役を仰せつかりましたITソリューションズの後藤でございます。

今年度の学校委員会は私を含め5名の委員からなりますが、学校理事会(日本国大使館、商工会、学校、PTA代表の10名から構成)に参画し、中心的な役割を担いつつ中長期的な視野の下に、児童生徒がここハノイで思い出深い、且つ充実した学校生活を送れるように教育環境の整備、改善に努めて参る所存です。

昨年度は長年の夢でありました新校舎が

完成し、素晴らしい環境の下で児童生徒も楽しい学校生活を過ごしておりますが、児童生徒数の急増によりその新校舎も手狭になりつつあります。そのため、今年度中に現在空きスペースのある4階に5教室の増設を行うこと、また児童生徒はもとより教職員も増えて大所帯になっていますので、円滑な学校運営のために学校事務局の強化も図りたいと考えております。

今年度も引き続き日本国大使館や建設部会をはじめとする商工会の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

★★スポーツ文化委員長★★



森 和夫(大成建設)

この度、2007年度のスポーツ文化委員長をおおせつかりました大成建設の森でございます。ベトナム着任2年目での大役ですが幸い経験豊かな方々にも委員に加わっていただきましたので前年度の活動をうけ、更に積極的に取り組む所存です。

本年度の活動計画は主催行事のソフトボール大会、後援行事のテニス大会、日本人学校運動会及び文化行事の日本語まつりが実施されます。

又、JBAVのメインイベントのお祭りにも積極的に協力していきたく思います。

今年度は特別活動として日越35周年準備委員会への参加があり、昨今の日・ベトナム間の政治・経済面での良好な関係がスポーツ・文化分野にも及んでおり、本事業の企画にも反映するよう努力してまいります。皆様方からの意見・要望なども活動の活性化に役立てたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

★★生活環境委員長★★



阿部信弥
(パナソニックベトナム)

生活環境委員会の本年の活動主目的は、日本商工会メンバーの皆様の生活環境の向上と、生活環境に関する有益な情報の提供です。

その主な活動は、恒例の巡回健康相談の実施と、その他の特別活動としまして生活・医療に関する情報の提供を計画しています。

特別活動は大きく分けて次の3つです。

- ① 医療関係情報の徹底
病気(デング熱、鳥インフルエンザ等)の予防・治療対策は日本大使館のHP

に掲載され、また在留邦人登録者にはメールが流されますが、その大使館HP閲覧や、在留邦人登録の注意喚起を行います。

- ② 交通事故予防対策
乗車時の「シートベルト着用100%キャンペーン」の実施をホアンキエム誌やステッカー作成を通じて徹底します。
- ③ アパート実態調査の徹底
新しく赴任する日本人駐在の方のためにその実態情報を提供する予定です。

★★投資促進委員長★★



石渡健次郎(JETRO)

投資促進委員会を担当させていただきます。

近年、日本の対ベトナム投資は拡大を続けており、1994～97年頃に続いて第2次ブームといわれるくらい順調な推移を示しております。

本委員会としては、こうした拡大傾向を支援すべく、対越投資促進のための制度・手続情報などを収集し、ビジネス環境の変化等に関する情報を提供して行きたいと考えます。とりわけ、ベトナムのWTO加盟後の対外

通商関係の動き、EPA/FTAの交渉・締結の動向、物流網の発展状況は、我が国企業にとって最適調達・生産・販売の拠点をどこに求めるかなどを決める上で重要な要因となります。

本委員会では、ベトナム自身の投資環境の変化に加え、アジア大での投資環境の変化についても関係機関と連携して情報を提供して行きたいと考えています。ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

★★渉外委員長★★



唐沢裕一(三菱商事)

今年度、渉外委員長を拝命した唐沢裕一でございます。

ベトナム日本商工会も正式に発足してから今年で9年目を迎え、会員数も年々増えて、充実した活動を行なっております。

当委員会は、会長・事務局の対外活動を支え、ハノイ人民委員会、在越外国商工会、来越する邦人組織他、諸団体との折衝窓口となり、情報交換と活動報告を通じて会員の皆様のお役に立つ様努めて参ります。

今年度は、私を含め7名の委員で委員会を運営致します。既に多くの商工会活動が企

画されており、その中でも重要行事である来年度の「日越国交樹立35周年記念」準備委員会、並びに、GMS関連行事の為に、各2名ずつ担当委員を決め、活動を始めております。

会員の皆様、現在ほど日越の関係が充実した事はかつて無かったと思います。今、当地で勤務する我々が一丸となり、対外活動を充実させてこの素晴らしい関係を維持・強化していきたいと思っております。皆様の活発なご意見と、当委員会へのご協力を宜しくお願い致します。

★★BF委員長★★



小関 健(三井物産)

Vietnam Business Forum 対応、及び越商工会議所(VCCI)との Vietnam Japan Business Forum (VJBF)窓口を担当しています。

日本国は、経済成長を通じた貧困削減が重要との考え方に基づき、経済セクター支援に対する援助を通じた貿易・投資の活性化、法制度整備等の支援を行っており、又越国社会経済発展5カ年計画でも市場経済化、民間投資拡大が必要とされています。

そこで年二回の援助国会議の前に、計画投資省とIFC/世界銀行主催によりVBFが開催され、民間投資拡大のためのビジネス環

境整備等に関する民間とベトナム政府との協議結果が発表され、援助交渉に反映される仕組みとなっています。日本政府は第5次貧困削減支援借款として25億円の円借款を供与しています。

当委員会は、周辺国との投資環境比較調査報告、日越共同イニシアチブの進捗状況の報告などを行っています。

一方 VJBF では、日系企業と日本企業との取引を望む越企業双方の Needs に応える為、活動開始したところです。

☆☆日越経済会議
委員長☆☆



高山俊朗(住友商事)

住友商事の高山です。前任の池田の後を引き継ぎ、日越経済会議委員長を担当いたします。

日本経団連のハノイにおける窓口として日越の経済関係の深化、発展に微力ながら携わっていきたく思っております。本年も経団連とタイアップして進めてきております奨学金授与を11月ごろ予定しております。授与先はフエ大学、ダナン大学の両校であります。先日引継ぎを兼ね訪問してきました。両校の副校長他関係者からこれまでの奨学金授与に関し、

感謝の表明と継続依頼がありました。関係者からは奨学生が将来働く先として日本企業にダナン、フエの中部地区にもっと進出してほしいとの強い期待表明もありました。

又本年11月には日越共同イニシアティブのフェーズⅡのモニタリングの最終評価委員会が行われる予定ですが、これに出席する経団連日越経済委員長の受け入れのアレンジなどを行う過程で両国の経済発展に一部でも寄与出来ればと思っております。

☆☆事業環境委員長☆☆



景山幸郎(キャノンベトナム)

本年度、事業環境委員会を担当させていただきますキャノンの景山です。

この事業環境委員会は、進出企業が急激に増加していく中で既進出企業の直面する様々な事業環境をより良くして行く為、従来の投資促進事業環境委員会から独立させたものです。

大きなテーマの一つは「日越共同イニシアティブ フェーズⅡ」のフォローです。これは当委員会の中に、下部委員会として市川匡四郎氏を委員長とする特別委員会を設け、合意した46項目について年末のモニタリング委員会に向けてフォ

ローして行きます。

また、進出企業の大多数を占める製造業にとって、安定的な電力供給は生命線です。雨季に入り状況は一段落はしているものの、既進出製造業に年間を通じ、今後とも安定的な、そして優先的な電力供給を働きかけていきます。

更に労働争議の未然防止活動なども日系工業団地をパイロットタスクとして、具体的な活動に結び付けて行きたいと思えます。

皆様方のご支援、ご協力をお願い致します。

☆☆事業環境委員会
特別委員長☆☆



市川匡四郎(JICA)

2007年度新たに設けられました事業環境委員会の下部組織としての日越共同イニシアティブ・タスクフォースを担当させていただきます市川です。JICA専門家として計画投資省外国投資庁に派遣されていますが、この度ベトナム日本商工会のお役に立つ事ができ嬉しく思っています。

皆様ご存知の通り日越共同イニシアティブはベトナムの投資環境改善することを目的として2003年4月日越両国首相の合意の下設置され、同年12月具体的改善の為の行動計画(44項目)を策定し

日本政府・ベトナム政府・日系企業が共同して実施して来ました。

2005年11月、総合評価・促進委員会が開催され、大きな成果を挙げたことが確認され、そのため引き続き第2フェーズを実施することになり、2006年2月以降投資環境改善の行動計画を実行しております。今後は2007年11月の総合評価促進委員会の評価に向け行動計画の実行を商工会の夫々のワーキングチームの方々がフォローされる事になりますので、なにとぞご支援の程お願い申し上げます。

☆☆観光促進委員長☆☆



安原 誠(ホテル日航ハノイ)

昨年度に続き観光促進委員会委員長職を本年度も拝命いたしましたホテル日航ハノイの安原 誠と申します。

本委員会は2004年度期中にベトナムへの日本人観光客促進のために発足しました委員会です。

委員会としては観光促進という活動を通じて、日本におけるベトナムの認知度向上による間接的な進出企業の後押し、

ベトナム側への改善提言による日本人観光客や在留日本人の滞在環境改善等の働きかけを行っております。

本年度はJBAV会員の特典拡大のため、JBAVカード割引特典契約店の増加にも努力する計画です。

会員各位の積極的な参加、ご意見等もお待ちしておりますので一年間ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

★★広報委員長★★



青木 誠一
(ベトナムイメージパートナーシステム)

この度、広報委員長を仰せつかりましたベトナムイメージパートナーシステムの青木です。広報委員会では、JBAVの様々な活動を会員の皆様を始めハノイを中心とするベトナム北部にお住まいの方々に広くお伝えするとともに、次代を担うベトナムの若者に会員企業の活動も伝えていきたいと思っております。

そのため、本年度も昨年度に引き続き、広報誌ホアンキエムの発行、2007年版パンフレット作成、ベトナムの小中学校生を対象とす

る日本企業見学会、JBAVホームページの充実を図り情報発信を行ってまいります。

1年間の活動内容は盛り沢山ですが、委員一同精一杯務めてまいり所存です。会員の皆様には、原稿御執筆、様々な情報提供などのご協力をお願いすることになると思っておりますが、JBAVの一層の発展の一翼を担いたいと思っておりますので、なにとぞご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

ハノイ日本語まつり 2007

今年11年目を迎えます「ハノイ日本語まつり」は、1997年にハノイスピーチコンテストとして始まり、今年10月14日に開催します。

この日本語まつりは、日本語を学ぶ方々に日ごろの学習の成果を発表してもらおうとともに、日本とベトナムの友好関係を深めることを目的に開催してきました。年々参加者も増加し、商工会のみなさまや大使館をはじめ、多くの方々のご協力をいただき開催してまいりました。

現在、ベトナムでは3万名近くの方が日本語を学習しており(VJCC調べ)、その数は2003年と比較して1.6倍となっています。ハノイやホーチミンだけではなく、ハイフォン、ダナン、フエなど地方の学習者、中学生、高校生から社会人まで多くの方が日本語を学習しています。学習者層の広がりに伴い、日本語まつりの規模も年々拡大し、発表者のレベルも高くなってきました。昨年の日本語まつりには、スピーチ部門だけでも89名の応募があり、当日にお越しいただいた600名の方々もベトナム人学習者のレベルの高さに驚かれました。

今年の日本語まつりは、スピーチコンテスト、パフォーマンスコンテスト、俳句・川柳作品の展示などを行います。なお、スピーチコンテストの優勝者は、富士吉原ライオンズクラブ(静岡県)より1ヶ月間日本研修旅行へ招待されます。

現在スピーチ、パフォーマンス等の参加者を募集しております。お近くで日本語を学習されている方にも是非、ご参加を呼びかけていただければと存じます。応募要項をご希望の方は、下記までご連絡ください。また、当日、みなさまのご来場も心よりお待ちしております。

(VJCCハノイ)



(写真は2006年度のもの)

「ハノイ日本語まつり2007」

スピーチ等応募受付期間:

8月27日(月)～9月7日(金)

開催日:10月14日(日)

場所:VJCCハノイ(貿易大学内)

91 Chua Lang st., Dong Da, Hanoi

お問い合わせ先:

VJCCハノイ 佐藤、雄谷 TEL04-775-1278

vjcc_hn_nihongo@yahoo.co.jp

シートベルト着用100%キャンペーン

生活環境委員会の本年の活動は、恒例の巡回健康相談の実施と、その他の特別活動としまして生活・医療に関する情報の提供を計画しています。

特別活動は大きく分けて次の3つです。

① 医療関係情報の徹底

病気（デング熱、鳥インフルエンザ等）の予防・治療対策は日本大使館のHPに掲載され、また在留邦人登録者にはメールが流されますが、その大使館HP閲覧や、在留邦人登録の注意喚起を行います。

【日本大使館HP】 <http://www.vn.emb-japan.go.jp>

② 交通事故予防対策

乗車時の「シートベルト着用100%キャンペーン」の実施をホアンキエム誌やステッカー作成を通じて徹底します。

③ アパート実態調査の徹底

新しく赴任する日本人駐在の方のためにその実態情報を提供する予定です。

その中で、今回は、最近特に留意しなければならない事項として、交通事故予防対策についてお話をさせていただきます。ベトナムでの交通事故は最近のオートバイ、自動車の増加や、信号機、横断歩道、中央分離帯の未整備、ドライバーの運転マナーなどの問題で交通事故件数が増えてきており、また、その中に残念ながら日本人も被害者になるという痛ましい事故も起こっています。在ベトナム日本大使館のホームページによりますと近年邦人が事故にあわれた事例は下記の通りです。

（死亡事故）

- ・ 2004年11月 女性旅行者がハノイ市内の道路を横断中、バイクに跳ねられ死亡
- ・ 2005年11月 男性滞在者が同乗する車が前方バイクを避け、路外に転落し、同滞在者が死亡
- ・ 2007年4月 男性がノイバイ空港からハノイ市内に向かう途中、乗車していたタクシーが道路標識に激突し、日本人の男性が死亡

（負傷事故）

- ・ 2005年2月 男性滞在者がハノイ市内の道路を

バイクで走行中に他のバイクと接触し、足を負傷

- ・ 2005年7月 男性滞在者が中部フエ市内の道路を走行中、他の自動車と接触転倒し、足を複雑骨折
- ・ 2006年 ハノイ市内でタクシーを拾おうとした男性滞在者が左側面から走行してきたバイクと衝突し、左大腿骨と左足靭帯を損傷

今後これらの交通事故は、いくら私たちが注意していたとしてもドライバーの運転マナーなどにより、いつ私たちの身に降りかかってくるともかぎりません。従いまして、生活環境委員会としましては、冒頭の交通事故予防対策にもありますように、『シートベルト着用100%キャンペーン』を実施させていただきたいと思いません。

少し古いですが、日本のあるデータによりますと、ドライバー席のシートベルト着用率は93.8%、助手席のシートベルト着用率は83.4%、後部座席のシートベルト着用率はわずか7.5%で、亡くなられた方のうちで車外放出による死亡率はドライバー席で17.2%、助手席で26.7%、後部座席では41.3%にもなるという結果が出ています。

ベトナム在住の多くの方はご自分で運転されておられる方は極めて少なく、多くの方は後部座席に座られていると思いますが、このデータにもありますように後部座席で死亡事故が起きた場合の約40%は車外放出によるもので、それを未然に防ぐためにはシートベルトを着用していただくことが一番であると思えます。

ベトナム在住の皆様方には、毎日ご多忙の日々をお過ごしのことと思いますが、より快適なハノイ生活をこれからも送っていただくためにも、是非、車に乗られるときは必ず『シートベルト着用』をお願い致します。

交通事故予防対策は、日本大使館ホームページにもたくさん掲載されていますので、必ずご一読いただきますよう、重ねてお願い致します。

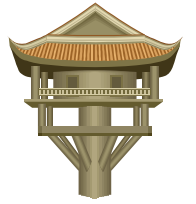
（生活環境委員会）



ベトナム歴史の散歩道 (その36)

ベトナムの歴史と革命の遺産

タイー寺



タイー寺は、神秘的な伝説に包まれた仏僧、徐道行(トゥ・ダオ・ハイン)が修行し遷化した地として名高く、高僧の寺(マスターパゴダ)とも呼ばれます。ハノイ市の南西約25kmに位置する、ハータイ省クオックオアイ県にあるサイ山周辺の天福寺、貝庵寺、頂山寺などの寺院群の総称です。標高105mのサイ山周辺は五千年以上前から人々が住みつき、多くの文化遺跡や初期仏教の伝播の痕跡が見られます。

1570年に記された「貝庵寺碑」によれば、貝庵寺の沿革はベトナムの初期独立王朝丁朝(968-980)にまでさかのぼり、きわめて古い時代から地域の信仰の中心であったことがうかがえます。李朝期(1010-1225)に徐道行(?~1116?)が修行し、李朝五代皇帝神宗(在位1128~1138)に生まれ変わったと信じられ、それ以来各王朝の一層の崇敬を集め修築と規模の拡大が繰り返され、現在に至っています。

ではまず主寺院の天福寺をご案内します。寺は李仁宗(在位1072~1127)の時代に建てられました。本殿は三つの堂屋が平行した「三」字形で、その回りを祖師堂、回廊が囲んでいます。前方は拝殿(下寺)で、壁には地獄のレリーフがあり、また白馬、馨があります。中央は仏殿・中殿(中寺)で、真中にひな壇式に、三世仏(過去仏、現在仏、未来仏)、釈迦誕生仏、苦行仏(雪山像)などが配置されています。まず度肝をぬかれるのが、両側にある高さ4メートルの護法の坐像と、八大金剛の立像です。ハノイ市内の社寺では見られない迫力で、観る者を圧倒します。後方は上殿(上寺)です。中央に金色の冠をかぶり、黄色の衣をまとった徐道行の座像が蓮の台座にあり、その後ろには蓮の花、龍、とりわけチャム彫刻の深い影響を示すガルーダを刻んだ石の方形の台座(陳朝期1225~1413)があります。さらに奥に仏像が配置されています。仏像を背にして左側には、黄色の衣で覆われた玉座があり、普段は前に飾られた写真でしか見られない徐道行の白檀の像が奥の厨子に安置されています。この像は水上人形劇の人形のように関節が曲がるように作られています。右側には徐道行の生まれ変わりとして信じられている神宗の像と、その前には二体の随身の像があります。

本殿の背後の建物は鐘楼と祖師堂で、達磨、徐道行、高僧、聖母道の聖母などの像があり、両側の回廊には18体の阿羅漢が祀られています。

寺の前には龍の池が広がり、池の中に設けられた水亭では、旧暦3月5・6・7・8日の祭りのときに水上人形劇が催されます。伝説では、徐道行が民衆の娯楽のために水上人形劇を創設したと言われています。池の左右には、三府殿のある日天橋とサイ山の登山口に通じる月天橋という屋根のある橋がかかっており、水亭とともに寺に何とも言えない趣を与えています。

では月天橋を渡って、サイ山に登ってみましょう。10分ほど険しい自然石の階段をのぼると、頂山寺に着きます。そこには、徐道行が神宗に生まれ変わるため遷化したと言われる聖化洞や、こぶりですが仏像や聖母を祀ったいくつかの美しいお堂が、岩山の地形そのままに肩を寄せ合うように建っています。さらに険しい山道を頂上まで登ると、視界が開けこの地方独特の石灰岩と緑の木々で覆われた奇峰群と水田が広がる景観が望めます。連なる丘陵には多くの洞窟があり、そこでホーチミンが抗仏戦争中、共産党の集会を開き、サイ山の寺々を隠れ家にしたと言われています。

このように、タイー寺はベトナムの貴重な歴史と革命の遺産であり、有名な景勝の地でもあります。ハノイから西に延びるラン・ホアラック通りを車で45分程行くと、右手に「Chua Thay」と書いた標識があり、そこを右に曲がり道なりに進んでください。半日でも観光できますので、一度足を伸ばしてみてくださいはいかがでしょうか。

(ハノイ歴史研究会)



(護法)

参考文献: 第13回ハノイ歴史研究会史跡めぐり
参考資料 大西和彦著

活動報告 (2007年3月~7月)

2007年3月

- ① 2006年度第11回理事会(3月23日)
2007年度第2回臨時理事会
- ◇ 入会
オーミックベトナム(工業部会)
日新電機ベトナム(工業部会)
三井倉庫インターナショナル ハノイ駐在員事務所
(運輸部会)
- ◆ 退会
ITX(貿易部会)
- ② 新法人税法施行細則セミナー(3月13日)
- ③ 板東経産省審議官との昼食懇談会(3月21日)
- ④ 坂口財務審議官との意見交換会(3月27日)

4月

- ① 2006年度第12回理事会
2007年度第1回理事会
2007年度定期総会(4月23日)
- ◇ 入会
サイアムスチール(建設部会)
エクセディベトナム(工業部会)
ケイライン(運輸部会)
- ◆ 退会
ハイレックスベトナム(工業部会)
- ② 外務省在外公館査察団との昼食懇談会(4月12日)
- ③ 関経連ベトナムミッション来越(4月16~17日)
- ④ 浜田外務大臣政務官との夕食懇談会(4月24日)

5月

- ① 第2回理事会(5月24日)
- ◇ 入会
日揮(建設部会)
フジモールドベトナム(工業部会)
キンヨウシャベトナム(工業部会)
大和ハウス工業(サービス等部会)
安田倉庫ハノイ駐在員事務所(運輸部会)
- ◆ 退会
テルモタイランド ハノイ駐在員事務所(工業部会)
シンコーベトナム(サービス等部会)
- ② 望月国土交通省副大臣との夕食懇談会(5月3日)
- ③ ベトナムビジネスフォーラム(5月30日)

6月

- ① 第3回理事会(6月22日)
- ◇ 入会
ビケンベトナム(建設部会)
日立プラントテクノロジー(建設部会)
ウェルビー(香港) ハノイ駐在員事務所(サービス等部会)
HiMCソリューションズ(サービス等部会)
山九ロジスティクスベトナム(運輸部会)
- ② APEC官民対話促進セミナー(豪・ケアンズ)(6月24日)

計244社

計246社

計249社

計254社

7月

- ① 第4回理事会(7月27日)
- ◇ 入会
四変ベトナム(工業部会)
ベトナム東洋電装(工業部会)
MATベトナム(サービス等部会)
日本梱包運輸倉庫(運輸部会)
バンテックワールドトランスポート ハノイ駐在員事務所
(運輸部会)
- V I J A C O (運輸部会)
- ② ハノイ人民委員会外務局長との懇談(7月13日)
- ③ MPI・JICA・JBAV共催「WTO施行細則(案)説明会」
(7月20日)

計260社

★★★編集後記★★★

・ホアンキエム第39号をお届けします。交代したばかりの編集子の不慣れ—これは、編集そのものに不慣れということに加え、原稿の催促の仕方など様々な要因によるものですが—故、当初6月末発行を目指していましたが2カ月程の遅れとなってしまいました。

・6月から7月は、異動の季節でもありました。JBAV 会員企業も例外ではなく、決して少なくない方々が社命で帰国され、また、新しい方が着任されました。原稿をお願いした部会長・委員長も交代があるなど、帰任に際して慌ただしい中、ご迷惑をかけたのではないかと身の縮む思いです。この場を借りて、帰国される方々のますますのご発展と、着任された皆さんの当地でのご活躍をお祈りします。

・7月中旬、ミーディングスタジアムでサッカーのアジア大会が開催されました。実力的には危なげなく予選通過を果たすだろうとの大方の予想に反し、第1戦で引き分け発進。そのうえ、対戦相手の監督の代表見下し発言など、素人の編集子、心配しました。

・第2戦以降危なげなく快勝。日ごろのうっぷんを果たしてくれました(?) JBAVでは、予選3試合のチケットの確保の他、横断幕も用意し、高温・高湿度の中アウェイで戦う日本代表を応援しました。アジア杯、3連覇ならずでしたが、ハノイの地で日本代表のユニフォームが見られたことに満足。

・第40号では、東京義塾100周年(2007年が福沢諭吉に刺激を受け大衆教育運動の嚆矢となった運動の100年に当たるそうです)を特集するつもりです。したがって、年内発行が目標です。ご期待ください。

(広報委員 編集子)

